

岩沼出張所つうしん

第 46 号
平成 17 年 5 月 30 日
仙台河川国道事務所 岩沼出張所
岩沼市館下 1 丁目 2 - 9
TEL 0 2 2 3 - 2 2 - 2 8 0 1

会計実地検査を受検 5/17～20

5月17日～20日までの4日間、会計検査院、国土交通検査第3課の吉江統括調査官を含む5名の調査官が、仙台河川国道事務所の河川事業を検査いたしました。

当岩沼出張所では、岩沼市及び、亶理町の桜づつみモデル事業の現地検査、岩沼市に委託している押分水門、押分排水機場の現地検査、光ケーブル・ハンドホールの現地検査等を受験しましたが、特に問題もなく終了いたしました。



亶理町 桜づつみモデル事業 (高須賀)

重要水防箇所合同巡視

5月25日(水)岩沼出張所管内・重要水防箇所の合同巡視が、仙台河川国道事務所、七ヶ宿ダム管理所、宮城県河川課、仙台土木事務所、岩沼市、亶理町、柴田町亶理地区及び、仙南地区広域消防本部、一般参加者を含め、49名で行われました。

参加者は、岩沼出張所の緊急資材倉庫を巡視した後、2台のマイクロバスに乗り込み、四日市場排水機場、小山水位観測所、堤防側帯、阿武隈大堰、高須賀地区、荒浜陸閘、押分地区等を巡視し、それぞれの箇所を確認し、出水期に備えていました。

写真は、昨年3月に施工された堤防側帯です。水防用の土のう等を造るために土砂を備蓄している箇所ですが、今年度に完成する予定です。完成すれば、約1万)の土砂の備蓄箇所が出来上がります。



阿武隈川右岸 11.8 km 地点 堤防側帯

阿武隈大堰の管理用通路を更新

阿武隈大堰は、昭和57年に完成してから23年目を迎えます。その間、数多くの洪水に遭遇し、高水敷が冠水することも度々ありました。冠水すれば、上流から運ばれてくる肥えた土砂が高水敷に堆積し、雑草等が繁茂、その土砂は年々量を増やし、写真上のような状態になりました。

週に2回実施する河川巡視や毎日実施する大堰巡視では、(上)元の管理用通路(下流から望む)洪水後は数日間、たまり水の中を歩いたり、車を走らせた(下)新・管理用通路(上流から望む)りしなければなりません。

そのため、昨年度、今までのコンクリート舗装の管理用通路の両脇にコンクリートブロックを設置し、路面を堆積した土砂の高さ程度まで嵩上げし、河川の岸側の土砂を撤去して高水敷に洪水の水が溜まらないような工事を実施しました。

まだ新しい舗装面ですので、健康づくりのウォーキング等で活用したいと思っております。なお、管理用通路の入口出口には車止め(車両進入防止柵)が設置されいますので、車の進入は出来ません。



人事異動情報 / 4月1日付け

4月1日付けの人事異動発令は、岩沼出張所内の職員にはありませんでした。しかし、業務委託で勤めている方に、大きな異動がありましたので、紙面で紹介致します。なお、「個人情報保護法」との関係で、今回は、顔写真は掲載しないことと致しました。

最初に 事務係 ですが、河川巡視を担当していた 黒滝 恒次 巡視員が、満65歳を迎え、ヤングパワーの 斎藤 伸一 巡視員に交替しました。黒滝巡視員よりみっちり指導を受け、4月1日より独り立ちしております。

技術係 では、工事監督全般を担当していた 三ツ谷 史人 現場技術員が、角田 竹美 現場技術員と交替になりました。角田技術員は、北上川下流河川事務所・鹿島台出張所で、地震災害の復旧工事等を担当してきた方です。

管理係 では、大堰のゲート操作を担当していた 宮野 賢一 堰管理業務補助員が、伊藤 善博 堰管理業務補助員と交替になりました。伊藤補助員も難しい大堰のゲート操作を宮野補助員から指導を受け、今後の洪水に備えています。また、夜間や祝祭日に情報の通報業務を担当している情報連絡員の 菊地 正雄 連絡員と 佐藤 喜一 連絡員が、秋葉 有三 連絡員と 佐藤 政弘 連絡員と交替になりました。加えて、大堰分室の清掃業務を担当していた 菊地 香代 さんが、本明 秋子 さんと交替になり、週1回の清掃が週5回に増え、分室内がより清潔に保たれることになりました。

押分水門、押分排水機場では、岩沼市から派遣されていた 深澤 三朗 操作員が、安住 和夫 操作員と交替になりました。水門と排水機場のむずかしい操作を身につけて、大きな洪水の時に活躍出来るよう、準備をお願い致します。

以上、岩沼出張所の一員として、新たに7名の方が担当に加わりますので、よろしくお願い申し上げます。

阿武隈川下流(宮城県内)の著名な洪水(明治・大正期)

「阿武隈川水系河川整備基本方針」に取上げられる前の著名な洪水について、洪水・災害記録として残っているものについて、ここに紹介したいと思います。

第2回目として、「明治・大正期の主な洪水」は、次のとおりです。

明治・大正時代の洪水は、明治2年、19年、23年、29年、30年、35年、43年、大正元年、2年、10年の各洪水がある。

明治時代で特に著名な洪水は、23年、29年、43年、等である。

明治43年8月の洪水は、未曾有の大洪水となり、関東、東海、東北地方一帯を襲い、阿武隈川は各地で越水、破堤し、その被害は甚大であった。

大正2年8月洪水、記録

		日 雨 量				最 高 水 位	
区分	河川名	地 名	8 2 4	8 2 5	8 2 6	8 2 7	地名・水位・起日
下 流 部	阿 武 隈 川	青 根	9.0	3.0	130.0	200.2	丸森 7.12 28d 毎時水位あり
		白 石	1.6	1.9	94.7	96.5	小斉 7.12 27d 12hr
		亘 理		2.5	57.0	100.1	江尻 6.85 27d 23hr
		仙 台					荒浜 2.68 27d 21hr 毎時水位あり

出 典 : 五十年史(建設省 東北地方建設局 仙台工事事務所 平成3年7月31日発行)

—あとかき—

5月は「水防月間」です。正月からの大雪により、4月の融雪洪水が心配されましたが、大きな影響もなく通過しました。これから、梅雨の時期、台風の時期(昨年は10個も上陸)に、阿武隈川が大暴れしないように、「早めに竹駒神社で祈祷でもしておこうかな」と思うこのごろです。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/sendai/index.html>